



## 成長市場に参入 ボッシュのエンジン制御が二輪車の燃費向上と コネクティビティを推進

2014年10月13日

PI 8732 GS FF/af

- ▶ ロルフ・ブーランダー:「10億規模を見込める市場に参入」
- ▶ 250 cc未満から1,000 cc以上のクラスに高効率とライディングの楽しさを提供
- ▶ スマートフォンベースのコネクティビティを実現

ボッシュは、新しいパワートレインシステムを通じて二輪車の世界市場に参入し、電子制御式の燃料噴射テクノロジーにより世界中の二輪車の燃費性能の向上を図ろうとしています。ロバート・ボッシュ GmbH取締役会メンバーのロルフ・ブーランダーはこう述べます。「ボッシュは新しい二輪車向けパワートレインシステムを通じて、10億規模を見込める市場に参入しようとしています。」現在、世界中で生産されているエンジンを搭載した二輪車の台数は年間およそ6,000万台に上り、同市場は2020年までに1億1,000万台規模に成長すると予測されています。この市場に参入するために、ボッシュはグローバルなアプローチを進め、アジア市場向けの低価格帯の二輪車、欧州および北米市場向けの高性能バイクのいずれにも対応したソリューションを開発しました。ボッシュはこの市場参入に際し、自社製品の製品ポートフォリオの拡充も図っています。ABS（アンチロック ブレーキ システム）やMSC（モーターサイクル用スタビリティコントロール）をはじめとしたボッシュのセーフティシステムは、二輪車ユーザーから長期にわたり大きな信頼を寄せられています。ボッシュ取締役会メンバーのディルク・ホーアイゼルはこう述べています。「ボッシュは、ブレーキ性能と同じく加速性能にも力を入れ、二輪車の安全性、効率と走行快適性を確保するシステムを提供しています」

### アジアの成長市場のニーズに合わせたパワートレイン システム

アジアは、特に大きな成長が期待される市場で、早ければ2020年にも、アジアで販売される二輪車の新車の5台中4台にエンジンが搭載される見込みです。こうしたアジアの市場では、エンジン排気量250 cc未満の二輪車が一般的な交通手段とみなされ、多くの二輪車がいまだにキャブレターを搭載しています。電子制御式の燃料噴射システムは機械式のキャブレターと比べて燃費を最大16%向上させることができるため、ボッシュは同市場において自身のテクノロジーに決定的な優位性があると確信しています。この方式は、有害物質の排出量の低減と資源の節約にも大いに貢献します。ボッシュのガソリン システム事業部担当取締役のステファン・キャンプマンはこう述べま



す。「エンジン容量に関わらず、ボッシュのパワートレイン システムは、250 ccから1,000 ccクラスに高効率とライディングの楽しさをもたらすことになるでしょう」。とりわけ、アジアとインドでは、環境に与える影響を低減するために、効率性の優れたパワートレインがカギを握ることになります。そこでボッシュは、インドとアジア市場向けに、ロバスト性の優れた低価格帯のエンジン制御システムを開発しました。ガソリン システム事業部のインド統括部長のサンディーブ Nはこう述べます。「ボッシュはアジアの二輪車の大量市場向けに、簡素化されたシステム ソリューションの実現を目指します」

### **極めて重要なエンジン コントロール ユニット:二輪車向けのデジタル知能**

コントロール ユニットは、ボッシュの新しいエンジン制御システムの中心的な要素で、点火から燃料の量まで、パワートレインのあらゆるデータの分析を担います。小型エンジン プロジェクトのユニット リーダーを務めるハウケ・ロッシュはこう述べます。「ボッシュの新しいエンジン制御システムが、二輪車の分野にデジタル知能の要素をもたらすことになりました」。このことは、コーナーで車体が傾いた時でも安全なブレーキングと加速を保証するボッシュのMSC(モーターサイクル用スタビリティ コントロール システム)など、最先端のセーフティ システムからもうかがい知ることができます。すべての機能をエンジン コントロール ユニットのソフトウェアによりデジタル方式で制御することで、ボッシュのテクノロジーがミリ秒単位に近い高精度でパワートレインとブレーキ システム間の相互作用を実現しています。

**二輪車のコネクティビティ:オンボード コンピューターとアプリを利用したイモビライザー**  
さらにBluetoothインターフェースやコネクティビティ コントロール ユニットがあれば、将来的には、二輪車とスマートフォンなどの外部機器をネットワークでつなげられるようになっていきます。これが実現すると、アプリに新たな可能性が開くこととなります。すでにボッシュは、拡張オンボード コンピューター、遠隔診断用ソフトウェア、アプリで管理できるイモビライザーの3つのアプリケーションを発表しています。このうち、拡張オンボード コンピューターは、燃費や平均速度などのデータを表示できるようになっており、家に帰ってから二輪車で走行データを分析することができます。また、診断用アプリをインストールすれば、スマートフォンを読み出し端末として利用することもでき、エラーコードを表示して修理に役立てるといったことも可能になります。スマートフォン ベースのイモビライザーの例が示しているように、コネクティビティはインド市場においても重要性を増しつつあります。燃料噴射システム、つまりエンジンも、二輪車ユーザーのスマートフォンでしか作動できないようにすることが可能になり、盗難防止の追加保護措置となる二輪車のカスタマイズも実現できます。また、カスタマイズにより二輪車のシステムだけでなく、インターネットにも接続できるようにしたオンボード コンピューターは、スマートフォンを使った単なるコネクティビティの域を超えた、信頼のおけるオプションとなっています。こうしたソリューションのコンセプトは、電動二輪車向けにボッシュが開発したNyon(ニヨン)システムにもはっきりと表れています。このシステムは、ルート設定だけでなく、電動二輪車のさまざまな走行モードの制御にも利用できるようになっています。ボッシュは、このようにネットワーク化されたオンボード コンピューターが、二輪車向けの魅力的な新たな開発にも結びつくことを確信しています。



詳細については[www.bosch-motorcycle.com](http://www.bosch-motorcycle.com)をご確認ください。

報道用画像: 1-GS-20643、1-GS-20644、1-GS-20645、1-GS-20648

#### 報道関係対応窓口:

Florian Flaig

電話: +49 711 811-6282

#### ボッシュ・グループ概要

モビリティソリューションズはボッシュ・グループ最大の事業セクターです。2013年の売上高は306億ユーロで総売上高の約66%を占めています。モビリティソリューションズの売上により、ボッシュ・グループはリーディング・サプライヤーのポジションを確立しています(注: 会計方針の変更のため、今回公表する2013年のデータと昨年発表した2012年データは、限定的な範囲での比較)。モビリティソリューションズでは主に、内燃機関用噴射技術、代替駆動コンセプト、効率的そしてネットワーク化されたパワートレイン周辺機器、アクティブ/パッシブセーフティシステム、運転支援/コンフォート機能、ユーザーに優しいインフォテインメント技術やCar-to-CarおよびCar2Xコミュニケーションとコンセプト、オートモーティブアフターマーケット向けのサービスや技術といった分野で事業を行っています。なお、ボッシュ・グループは、電気駆動マネジメントや横滑り防止装置ESC(エレクトロニクス・スタビリティ・コントロール)、ディーゼルシステム用コモンレールなどの重要な革新的自動車技術にも対応しています。

ボッシュ・グループは、グローバル規模で革新のテクノロジーとサービスを提供するリーディング・カンパニーです。2013年の従業員数は約281,000人、売上高は461億ユーロを計上しています(注: 会計方針の変更のため、今回公表する2013年のデータと昨年発表した2012年データは、限定的な範囲での比較)。事業はモビリティソリューションズ、産業機器テクノロジー、消費財、エネルギー・建築関連テクノロジーの4事業セクター体制で運営しています。ボッシュ・グループは、ロバート・ボッシュ GmbHとその子会社約360社、世界約50カ国にあるドイツ国外の現地法人で構成されており、販売、サービス代理店のネットワークを加えると、世界の約150カ国で事業展開しています。この開発、製造、販売のグローバル・ネットワークが、ボッシュのさらなる成長の基盤です。

ボッシュは2013年に約45億ユーロもの金額を研究開発に投資しました。さらに全世界では5,000件以上の国際特許の基礎特許(第一国出願)を出願しています(1日あたり平均20件の出願数)。私たちは革新的で有益なソリューションを提供し、そのすべての製品とサービスを通して、人々を魅了し、人々の生活の質を向上させることを目的にしています。この方針に基づき、ボッシュは全世界において人と社会に役立つ革新のテクノロジーを提供し続けていきます。それこそが「Invented for life」です。

さらに詳しい情報は [www.bosch.com](http://www.bosch.com) ボッシュ・グローバル・ウェブサイト(英文) [www.bosch-press.com](http://www.bosch-press.com) ボッシュ・メディア・サービス(英文)、ツイッター <http://twitter.com/BoschPresse> を参照してください。